



# 第5回「おたる案内人」マイスター 検定試験問題

2013年3月24日

小樽観光大学校

\*合格発表は下記のホームページでご確認できます。  
\*URL:<http://www.otaru-kd.com>

各設問で選択問題は番号で、また記述問題は決められた字数で記入しなさい。  
(制限時間90分)

問1

「観光地になるほど落ちぶれていない」という偏見の原因となったのは次のどれでしょうか

1. 共産主義と資本主義を分けた東西冷戦時代にどちらにも組みしない国への中傷
2. 富める国と貧しい国に分けた南北問題で南国の貧しい国への偏見
3. 核の持てる国が持たざる国への向けた偏見
4. 帝国主義が蔓延した時代の観光植民地主義への偏見

問2

「観光」という言葉の由来は「観国之光」といわれていますが、それはどの教典でしょうか。

1. 易 教
2. 書 経
3. 礼 記
4. 春 秋

問3

小樽の歴史上、最も早いといわれている観光現象は次のどれでしょうか。

1. オタモイ竜宮閣
2. 鉄道記念館
3. 朝里温泉旭風館開業
4. 越中屋ホテル新築

問4

今日の小樽観光の契機となったのは次のどれでしょうか。

1. 昭和38年 鉄道記念館
2. 昭和42年 おたる潮まつり
3. 昭和49年 おたる水族館
4. 昭和58年 北一硝子三号館

問5

今日のような小樽観光が生まれる背景で、間違っているのは次のどれでしょうか。

1. 高度経済成長で国民に余裕が出てきた
2. 国鉄を核とした交通網が整備された
3. 安近短旅行を促す雑誌やテレビが増えた
4. アメリカから圧力をかけられた

問6

今日のような小樽観光が生まれた要因の一つには、数え切れないほどの運河保存運動の報道といわれていますが、運河保存運動そのものが盛り上がった最初のきっかけは何でしょうか。

1. 昭和41年 道道小樽臨港線計画の発表
2. 昭和46～48年 有幌倉庫群の解体
3. 昭和54年 小樽市議会での運河埋め立て強行採決
4. 昭和57年 西武グループの運河進出記者発表

問7

「小樽運河を守る会」以後に誕生したまちづくり団体で、最も古いのはどれでしょうか。

1. サマーフェスティバル
2. 小樽まちづくり協議会
3. ポートフェスティバル
4. 小樽再生フォーラム

問8

「小樽モデル」といわれる説明で正しいのはどれでしょうか。

1. 歴史的建造物を観光施設へ再利用
2. 歴史的建造物を小樽市が指定
3. 歴史的建造物を復元した新築
4. 歴史的建造物が建てられた当時と同じ利用

**問9**

小樽が観光都市となって約30年、小樽観光の未来のために力を注ぐ道を以下の4つから1つ選びなさい。

1. より多くの観光客来訪を誘う「集客観光」
2. 日本人観光客の減少傾向の中で海外訪日客の一層の誘致展開
3. 小樽の個性を活かした知的探求型観光の展開
4. 市民総出のアマチュアリズム展開の街巡り観光

**問10**

小樽観光が岐路にあるといわれるが、それは何に起因するか次の4つから1つ選びなさい。

1. 札幌・道央圏圏に近く通過型観光であること。
2. 日本の観光構造が変化しそれに小樽観光が追いついていない。
3. 旭川旭山動物園など競合観光地が登場し競争力が落ちていること。
4. 滞在時間の減少、宿泊観光が少ない。

**問11**

まちめぐり観光の事例に取り上げた「長崎さるく」を開始した長崎観光の当時の問題意識を次の4つから1つ選びなさい。

1. パビリオン施設、公共観光施設等を充実した観光
2. 恐竜博・ロボット博など観光イベントの一層の展開
3. コンサルタントやエージェンシーに任せない市民創意型観光
4. 地域に特化した、長崎・地方大博覧会の開催

**問12**

長崎観光が「長崎さるく」を開始する際の一番の有利さを次の4つから1つ選びなさい。

1. 本物の資源が豊富で、個性的な文化を持つこと。
2. 長崎市が半島の先端にある。
3. 長崎市の人口が40万人であること。
4. ハウステンボス・出島復元などハード施設。

**問13**

「長崎さるく」が、いわゆる「まちめぐり観光」でイメージしたものはなにか、以下の4つから1つ選びなさい。

1. 「歴史の道探索」・「伝統文化探索の道」の整備
2. 町の露地裏をマニアックに探索する路上観察観光促進
3. ウォーキングが健康ブームで注目されてその流れに乗る。
4. 一見地味な「まち巡り」をまともな観光の主流する。

**問14**

長崎さるくが全国的に注目される「基本理念」を以下の4つから1つ選びなさい。

1. 長崎の本物の歴史資源を活かし個性ある文化を活かす
2. 長崎のまち活かし人活かし
3. 出島復元完了等新規設備を際立たせる。
4. 長崎市観光課が丹念に作った観光資源掘りおこしへの官民協働。

**問15**

長崎さるくで実際に市民参加で作られたまちめぐりコースのなかで実際につくられなかったコースはどれか、以下の4つから1つえらびなさい。

1. 長崎は今日も異国だった～南山手洋館・港が見える坂～
2. 長崎の本物歴史と個性的文化巡り～グラバー邸で竜馬と遭う～
3. 文人墨客も思案した～丸山巡遊～
4. 真ん中歩いても橋さるく～中島川石橋めぐり～

**問16**

観光エージェンシーの世界では発想できなかった市民主導の「長崎さるく」と呼ばれるが、その意義は次のどれでしょうか。

1. 日本で初めて成功したまちあるき観光
2. 着地型観光の日本で最大の成功事例
3. 日本で初めて成功した知的学習型観光
4. 日本で初めてのエージェンシー不在観光

**問17**

小樽運河公園でお客様をガイドしています。正しい項目を一つ選んでください。

1. 正面に見えます旧日本郵船小樽支店の建物は佐立七次郎の設計で明治37年着工、同38年に竣工した石造り2階建て建築です。2階の貴賓室や会議室は「金皮唐紙」という素晴らしい壁紙で装飾されています。
2. 運河公園内には小樽港を見つめている胸像が2体ありますが、旧日本郵船小樽支店の建物に近い方の胸像はケーソンヤード進水方式を世界で始めて採用した伊藤長右衛門で、小樽運河に近い胸像は明治41年、小樽港北防波堤を完成させた廣井勇である。
3. この公園の北側には3棟連続して木骨石造倉庫が建ち並ぶ歴史ある景観となっています。一番北側の大きな倉庫には「ヤマシチ」という「印」がつけられています。
4. 北運河から浅草橋までの直線上の運河には4箇所の橋が架けられていますが北端から最初に見えている端は北浜橋といい、その山側に延びた道路の先には移民の守護として榎本武揚が創建した龍宮神社があります。

**問18**

ガイド実施にあたり、間違っているのは次のどれでしょうか。

1. 車窓ガイドをする場合、高速道路では着席しシートベルトでガイドする。
2. 散策ガイドをする場合、停まって話す。(歩きながらのガイドは慎む)
3. 館内ガイドをする場合、外と同じようにお客様に声が聞こえるように積極的にマイクを使うのが普通。
4. 散策ガイドをする場合、歩く速さはお客様の速度に合わせる。

**問19**

小樽港が国内外への物流の拠点として栄えた明治38(1905)年、小樽港から海外への輸出品(出)、海外からの輸入品(入)、それぞれ取引額でもっとも多いものの組み合わせは次のどれでしょうか。

1. 鉄道枕木(出)－木材(入)
2. 木材(出)－練粕(入)
3. 練粕(出)－石炭(入)
4. 石炭(出)－練粕(入)

**問20**

明治11(1878)年、鯨漁肥主要移入港ランク(都府県名)で1位から3位まで(左から1位)の組み合わせで正しいのは次のどれでしょうか。

1. 三重・東京・大阪
2. 三重・大阪・岡山
3. 大阪・兵庫・徳島
4. 大阪・徳島・兵庫

## 記述問題

次の各設問に200字前後の文章で述べなさい（簡条書きは不可）

### 1. 小樽いいとこさがし

まちづくり観光といわれる所以は、様々な志を立てた運動が結果的に観光資源を発掘・育成することにつながってきたことをいいますが、あなたなら今後、小樽のどんなものを大事にすべきだと思いますか。その対象・理由・育成策について書きなさい。

（対象も理由も育成策も観光に関連づける必要はない）

（まちづくり観光論より出題）

2. マイスター検定に挑戦する皆さんの中で、自由課題で提出された自作の「新観光コース立案」と、「長崎さるく」で市民の手で商品造成された「42のまちめぐりコース」とを、実際の観光客の誘因動機等で比較・分析・検討し所見を述べなさい。自由課題を提出していない方は「長崎さるく」の手法を分析しなさい。

（オリジナル観光プラン立案より出題）

## 総合記述問題

次の設問に400字前後の文章で述べなさい（簡条書きは不可）

小樽は今も観光客にとって人気のある街ですが、いまだにその多くの人は運河周辺のみ観光で小樽を離れて行きます。しかし、周辺地区には歴史遺産や自然を生かした観光資源が豊富な地域もあります。また中心部の商店街や市場、路地裏は「街歩き」を楽しむこともできます。

小樽市内をもっと「街歩き」してもらったり、周辺地区を楽しんでもらうためにはどのような仕掛けや仕組みが必要でしょうか。運河周辺だけではなく、具体的な地区を設定し、実現可能な提案を書きなさい。

\*注：一過性のイベントや市街からの観光コースのみの提案不可。